

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

1 実施日 令和6年4月18日（木）

2 調査対象 第3学年生徒16名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

4 調査結果

(1) 教科に関する調査

国語は、全国平均を上回りました。
数学は、全国平均を下回りました。

<国語>

知識及び技能に関しては「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力に関しては「話すこと・聞くこと」に成果が見られた。一方、「漢字を正しく書く」問題や「話合いの話題や発言を踏まえ『これからどのように本を選びたいか』について自分の考えを書く」問題での無回答率が高く、書く力の育成が課題である。

<数学>

「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる」問題等において正答率が高かった。一方、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題等で正答率が低く、説明や証明に関する問題に課題が見られた。

(2) 生徒質問紙調査

成果が見られた項目

- ① 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
- ② 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生から教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。
- ③ 1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

課題が見られた項目

- ① 自分にはよいところがあると思いますか。
- ② 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- ③ 新聞を読んでいますか。

5 学力向上の取組

今回の調査の結果、生活習慣・学習習慣に改善が見られた。また、ICT の活用等を通して学び方も身に付いてきた。しかし、学ぶことの面白さや学習の有用感を感じていない生徒も多く、どのように学びを深めていくかが今後の課題である。

(1) 個別最適な学びの一層の推進

今年度、「学習アプリ」を導入し、小1からの「学び直し」と大学受験までの「先取り学習」ができるようにした。また、「デジタルスケジュール管理アプリ」を活用し、「1日の振り返り」と「家庭学習時間の記録」、「やることリスト（宿題・提出物等の確認）」の記入を徹底してきた。今後は、アプリのフィードバック機能を効果的に活用して学習ガイダンスを充実させ、個々の実態に応じた支援を進めていく。

(2) 対話を通して考えを広げ、深める授業づくり

多様な価値観を包摂し、自己の考えに修正を加えながら、より深く探究する力を育成するために、次の手立てを講じる。

- 見方・考え方の視点を変えたり増やしたりしながら発問の精度を上げ、授業のねらい向かって生徒を触発する。
- 教師自身がアイデアやコミュニケーションを生成し、対話を促進する。
- 異年齢・異校種・異業種等、立場や考え方の違う人々との対話の機会を増やす。

(3) 新聞タイムの拡充

これまでも学期に1回程度、新聞を読んで感想を書く活動を行ってきたが、9月からはNIE（新聞を活用した教育活動）に新たに取り組み、英字新聞も含めた8社の新聞を活用し、自分なりの考えを自分の言葉で表現する活動を行う。社会の様々な問題について生徒一生徒、生徒一教師で対話したり議論したりすることによって、地域や社会への関心を高めるとともに、多面的・多角的な見方・考え方を養っていく。

6 保護者・地域の皆様へ

- (1) 日頃より、生活習慣・学習習慣づくりにご協力いただきまして誠にありがとうございます。今後も引き続き、携帯電話・スマートフォンの使用に関して、お子さんがご家庭でのルールや決まり事を守れるよう、ご協力をお願いします。
- (2) 将来の夢や進路について、日頃からお子さんと話し合う機会を設けていただきたいと思います。学校と家庭が連携してお子さんの自己実現に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- (3) 地域の皆様には、学校教育にご理解ご協力をいただきありがとうございます。今後も、学校行事やPTA行事など、生徒たちの体験的な学習にご理解とご協力をお願いします。